

23 認知症疾患医療センター



「認知症疾患医療センター」とは、認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するものであり、認知症疾患における鑑別診断、医療相談、地域における保健・医療・福祉サービスの情報提供などを行っている。

鑑別診断は脳神経内科及び精神科神経科の医師が担当しており、30年度は212件の鑑別診断を行った。相談はソーシャルワーカーと看護師が電話及び面接にて行っており、30年度の相談援助延べ件数は852件であった。診断結果にて軽度認知障害（MCI）が増加傾向であり、あわせて患者さんからの相談も増えており、早期発見、早期受診につながっているものと考えられる。

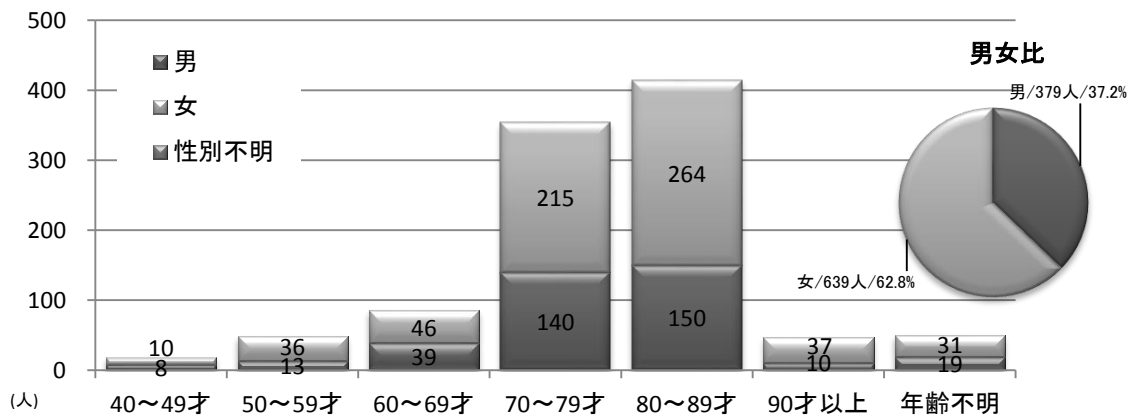
急増する認知症高齢者に対応するため、かかりつけ医との連携をさらに強化し、新オレンジプラン（「認知症施策推進総合戦略」）を見据えた情報発信や啓蒙活動、研修会などを行い、阪神圏域における認知症医療の向上に貢献していきたい。

23-1 年度別鑑別診断件数

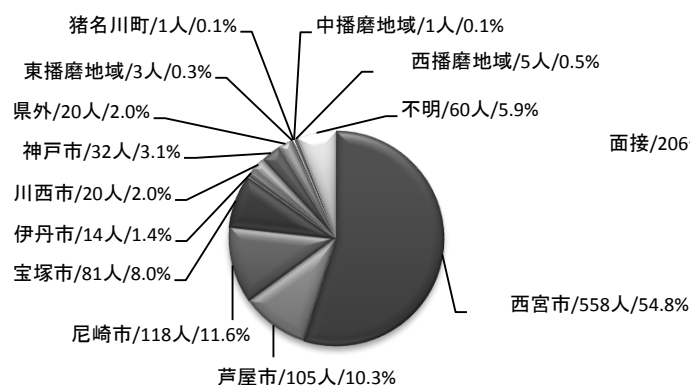
(件)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率 (%)	
鑑 別 診 断 件 数	175	180	190	201	212	-	
鑑 断 名	アルツハイマー型認知症	43	50	63	60	54	25.5
	脳血管性認知症	5	3	4	9	9	4.2
	混合型認知症	17	5	9	13	11	5.2
	レビー小体型認知症	2	3	12	7	6	2.8
	前頭側頭型認知症	8	7	8	13	14	6.6
	軽度認知障害（MCI）	53	65	41	50	75	35.4
	年 齢 相 応	22	22	25	21	16	7.5
そ の 他	25	25	28	28	27	12.7	
処 遇 方 針	当 院 通 院	10	18	22	15	29	13.7
	他 院 通 院	150	147	167	174	180	84.9
	そ の 他	15	15	1	12	3	1.4

23-2 30年度取扱年齢別実患者数の構成及び性別の構成比率(合計1,018人)



23-3 30年度取扱住所別実患者数の構成比率(合計1,018人)



23-4 30年度相談援助延べ件数の内訳(合計852件)

